

年間指導計画・評価計画(国語)第1学年

担当: 信濃 はるか

月	単 元					
	単元名	時数	学習の目標(ねらい)及び内容	評価の観点		
				知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
				1	1	1
4月	朝のりレー	2	音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。	○		○
	声を届ける・野原はうたう	1	音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。	○		○
	書き留める言葉調べを続けてみよう	2	・音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。 ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。 ・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。	○	○	○
5月	はじまりの風	4	比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出店の示し方について理解し、使っている。 ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写からとらえることができる。 ・言葉が持つ価値に気付き、進んで読書を思、言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。【ICT使用】	○	○	○
	情報を聞き取り、要点を伝える	1	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。 ・目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。 ・必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。	○	○	○
	音声の仕組みや働き	1	・音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝えようとしている。	○		○
	季節のしおり 春		事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。			○
	話の構成を工夫しよう 一枚の写真をもとにスピーチをする	4	・音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。 ・目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。 ・自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。【ICT使用】	○	○	○
	漢字1 漢字の組み立てと部首漢字に親しもう1	1	小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	○		○
6月	ダイコンは大きな根？	2	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。 ・文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。【ICT使用】	○	○	○
	ちょっと立ち止まって	3	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ・文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。【ICT使用】	○	○	○
	情報整理のレッスン 比較・分類	1	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。	○		○
	情報を整理して説明しよう 発見したことをわかりやすく書く	4	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。 ・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。【ICT使用】	○	○	○
	言葉1 指示する語句と接続する語句	2	指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めることができる。	○		○
	空の詩 三編 詩の創作教室 さまざまな表現技法	4	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。 ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 ・根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。	○	○	○
	言葉3 さまざまな表現技法	2	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。	○		○

	比喩で広がる言葉の世界	2	・比喩などの表現の技法を理解し使うことができる。 ・文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。	○	○	【知・技】比喩などの表現の技法を理解し使っている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。
	文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう	1	単語の類別について理解することができる。	○	○	【知・技】単語の類別について理解している。
	語彙を豊かに 心情を表す言葉	1	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き豊かにすることができる。 ・言葉が持つ価値に気づき、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしたいや考えを伝え合おうとする。	○	○	【知・技】・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き豊かにしている。
7月	情報収集の達人になろう コラム 著作権について知ろう	3	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。 ・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする事ができる。 ・言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしたいや考えを伝え合おうとする。	○	○	【知・技】・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にしている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。 【主】・引用の仕方や出典の示し方について積極的に理解を深め、今までの学習を生かして収集した情報をもとに考えたことを書こうとしている。
	読書を楽しむ	1	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。 【ICT使用】	○	○	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。
	本の中の中学生 あと少し、もう少し 西の魔女が死んだ 読書案内 本の世界を広げよう 読書コラム 本との出会い	1	・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする事ができる。	○	○	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。
	季節のしおり 夏		事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○	○	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
	大人になれなかった弟たちに……	4	・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。 ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる 【ICT使用】	○	○	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。
9月	星の花が降るころに	5	・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。 ・場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈することができる。	○	○	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。
	項目を立てて書こう 案内文を書こう	3	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。 ・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。	○	○	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。
	【推敲】読み手の立場に立つ	1	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き豊かにすることができる。 ・読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。 ・言葉が持つ価値に気づき、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしたいや考えを伝え合おうとする。	○	○	【知・技】・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き豊かにしている。 【思・判・表】「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。 【主】・粘り強く文章を遂行し、今までの学習を生かして案内文を書き改めようとしている。
	言葉2 方言と共通語	1	共通語と方言の果たす役割について理解することができる。	○	○	【知・技】共通語と方言の果たす役割について理解している。
	聞き上手になろう 質問で話を引き出す	1	・音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。 ・必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。	○	○	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 【思・判・表】「話すこと」「聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。
10月	漢字に親しもう2 漢字2 漢字の音訓	1	小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	○	○	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。
	「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	5	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。 【ICT使用】	○	○	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。
	思考のレッスン1 意見と根拠	1	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。	○	○	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。
	根拠を示して説明しよう 資料を引用して報告する	5	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。 ・根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。【ICT使用】	○	○	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 【思・判・表】「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。
	漢字に親しもう3	1	小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	○	○	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。
	文法への扉2 言葉の関係を考えよう	2	単語の類別について理解することができる。	○		【知・技】単語の類別について理解している。

1 1 月	聴きひたる 大阿蘇	1	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・言葉が持つ価値に気づき、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしたいや考えを伝え合おうとする。				【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【主】進んで言葉の響きやリズムを味わい、語感を磨きながら、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
	季節のしおり 秋		・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○		○	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
	古典の世界 音読を楽しむ いろは歌	1	・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 ・古典にはさまざまな種類の作品があることを知ることができる。 【ICT使用】	○		○	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 ・古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。
	逢萊の玉の枝 ——「竹取物語」から	4	・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 【ICT使用】	○	○	○	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 【思・判・表】読むことにおいて、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。
1 2 月	今に生きる言葉 漢文を読む	3	・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする ことができる。 ・書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。 【ICT使用】	○	○	○	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 【思・判・表】読むことにおいて、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにして いる。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている
	「不便」の価値を見つめ直す 【書く】根拠を明確にして、意見をまとめよう	4	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。 ・目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする ことができる。 ・根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること	○	○	○	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 【思・判・表】読むことにおいて、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確
	思考のレッスン2 原因と結果	1	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ・言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。				・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ・今までの学習を生かして、積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。
	漢字に親しもう4	1	小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	○		○	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。
1 2 月	【話し合い】 話し合いの展開を捉える	1	・意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。	○	○	○	【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】話すこと・聞くことにおいて、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。
	話題や展開を捉えて話し合おう グループ・ディスカッションをする	4	・意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。【ICT使用】	○	○	○	【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】話すこと・聞くことにおいて、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。
	季節のしおり 冬		事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○		○	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
	研究の現場によこそ 四百年のスローライフ はやぶさ2 最強ミッションの真実	2	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる。	○	○	○	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】読むことにおいて、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。
1 月	少年の日の思い出	6	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする ことができる。 ・書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。 【ICT使用】	○	○	○	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】読むことにおいて、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考 えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにして いる。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。
	漢字に親しもう5	1	小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	○		○	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。
	文法への扉3 単語の性質を見つけよう	2	単語の類別について理解することができる。	○		○	【知・技】単語の類別について理解している。
	二十歳になった日 さくらももこ	4	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 ・言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	○	○	○	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・「読むこと」において、文章の構成や転回、表現の効果について、根拠を明確にしている。 ・進んで心情を表す表現とその効果について考え、学習したことを生かして筆者のものの見方を捉え、随筆を読み味わおうとしている。。
	構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く	5	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。 ・根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること ができる。	○	○	○	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】書くことにおいて、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。

2月	漢字3 漢字の成り立ち	1	・学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。	○	○	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。 【主】学習課題に沿って、積極的に漢字の成り立ちについて理解しようとしている。
	一年間の学びを振り返ろう 要点を資料にまとめ、発表する	5	・音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。 ・相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。 ・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。	○	○	【知・技】 ・音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。
3月	ほくが ここに	2	・比喻、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするができる。	○	○	【知・技】比喻、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。
	国語の力だめし	3	・表現の技法を理解して使うことができる。 ・音読に必要な分後の決まりを知り、古典の世界に親しむことができる。 ・文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。 ・表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 ・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けてまとめることができる。 ・目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 ・読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。 ・言葉が持つ価値に気付くことができるとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。	○	○	【知・技】 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 ・共通語と方言の果たす役割について理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。 ・「書くこと」において、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。

		評価方法
①	知識・技能	定期考査・ワークシート・小テスト・発表
②	思考・判断・表現	定期考査・ワークシート・小テスト・発表
③	主体的に取り組む態度	定期考査・提出物・小テスト・発表